

手取川水系十八河原自然再生事業 ～工夫事例に対する評価～

Keywords : 水制工, 石の河原の復元, 生物多様性の保全

Before



①飛び出している岩を掘削
②水制工を設置

水裏水制
5m程度

自然石連結工法

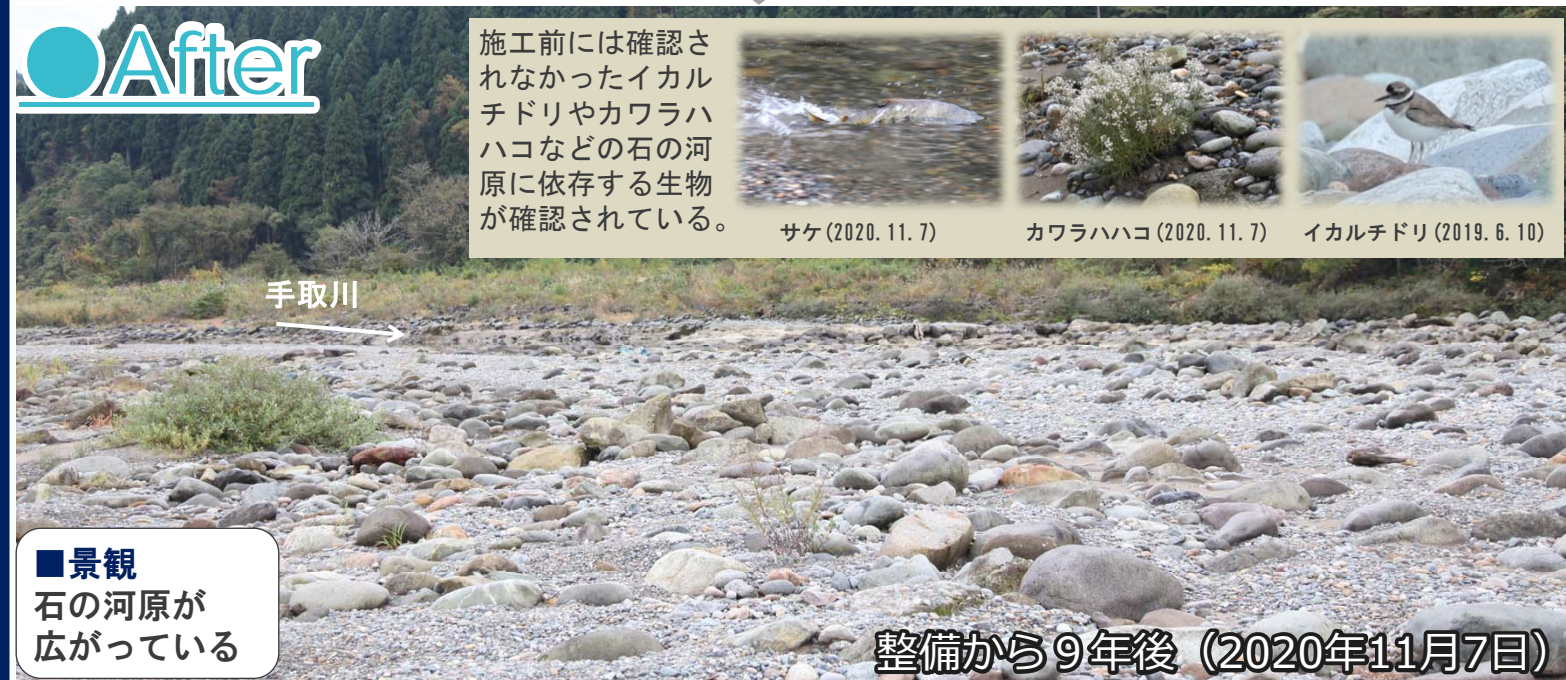
手取川

水制工の設置

■景観
岩盤が露出し
ゴツゴツしている

整備前の岩盤河床 (2010年11月26日)

After



施工前には確認されなかったイカルチドリやカワラハハコなどの石の河原に依存する生物が確認されている。

サケ (2020. 11. 7) カワラハハコ (2020. 11. 7) イカルチドリ (2019. 6. 10)

手取川

■景観
石の河原が
広がっている

整備から9年後 (2020年11月7日)

手取川の原風景である「石の河原」を再生し生物多様性の保全を図ることを目的として、岩盤が露出する十八河原地区を対象に、自然石を使用した水制工によって石の流出を抑制させる工法を採用した。

施工後約9年経過した現在も、水制工により石の流出が抑制され石の河原が維持されており、生物多様性の保全が図られている。